

(4) 山形地区



人口	3,246 人
世帯	991 世帯
面積	15,989.2 ha

■地区の概要

山形地区は、東北自動車道の東側に位置し、本市の森林、原野の大半はこの地区に含まれている。

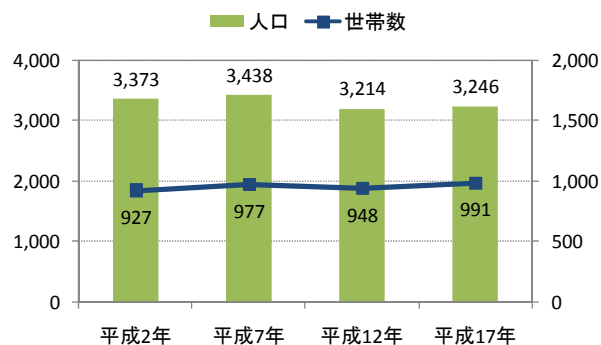
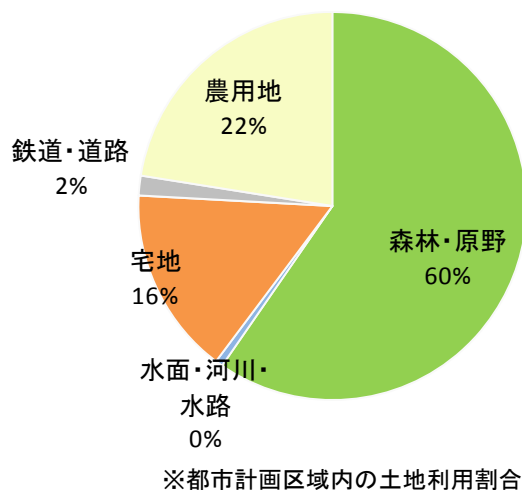
土地利用割合を見ると、森林・原野が約6割と高くなっている。

主な幹線道路としては、国道102号、国道394号がある。

地区内の主な地域資源は、黒石温泉郷県立自然公園、中野もみじ山、温湯温泉、板留温泉、落合温泉、青荷温泉、虹の湖、津軽こけし館、津軽伝承工芸館、浅瀬石川ダム、浄仙寺及び文学の森などが挙げられる。

人口は、平成17年現在で3,246人であり、全体として減少傾向となっているが、平成12年～平成17年には、わずかながら増加している。世帯数は、平成17年現在で991世帯であり、全体として増加傾向を示している。

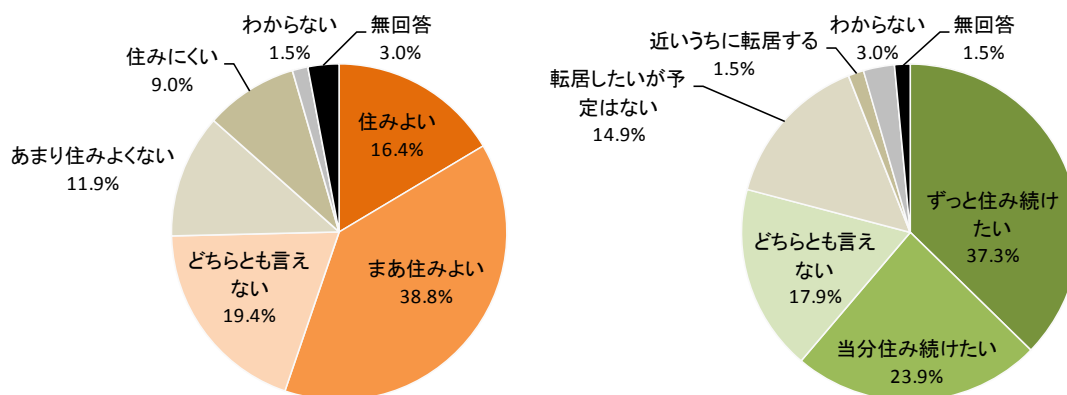
山形地区の面積は15,989.2haで、この内、2,334.9haが都市計画区域に指定されている。土地利用の状況を見ると、森林が全体の6割を占めている。



■地区住民のまちづくりの評価 《 アンケートから 》

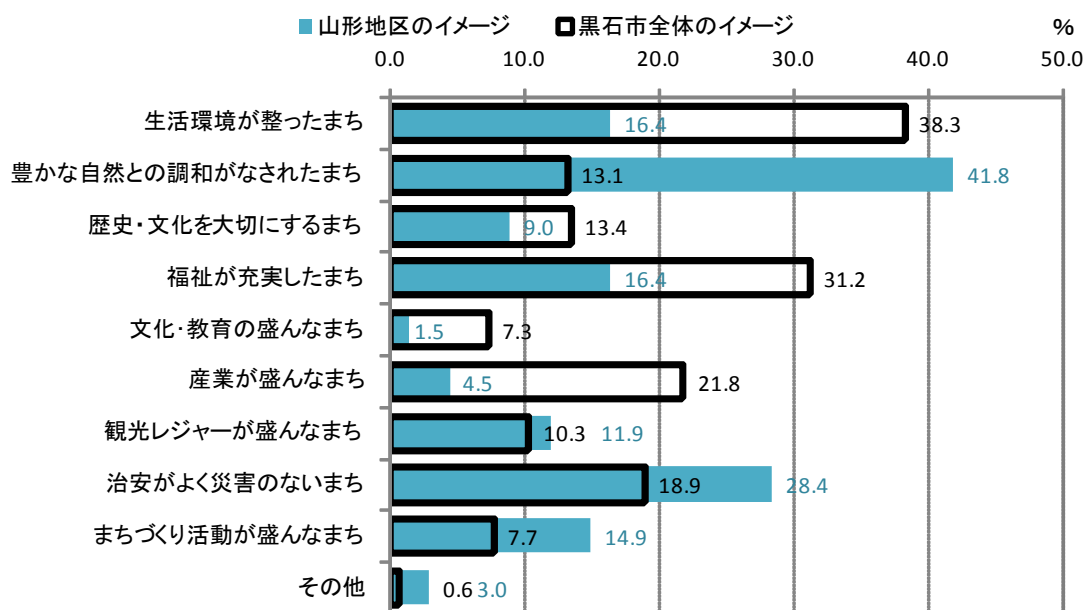
有効回答数：67票

【住み良さと今後の居留意向】



山形地区では、「住みよい」と答えた人が16.4%、「まあ住みよい」と答えた人が38.8%いた一方、「住みにくい」「あまり住みよくない」「どちらとも言えない」と答えた人が40.3%となっている。定住意向については、「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」と答えた人は61.2%、「転居したいが予定はない」と答えた人は14.9%となっている。

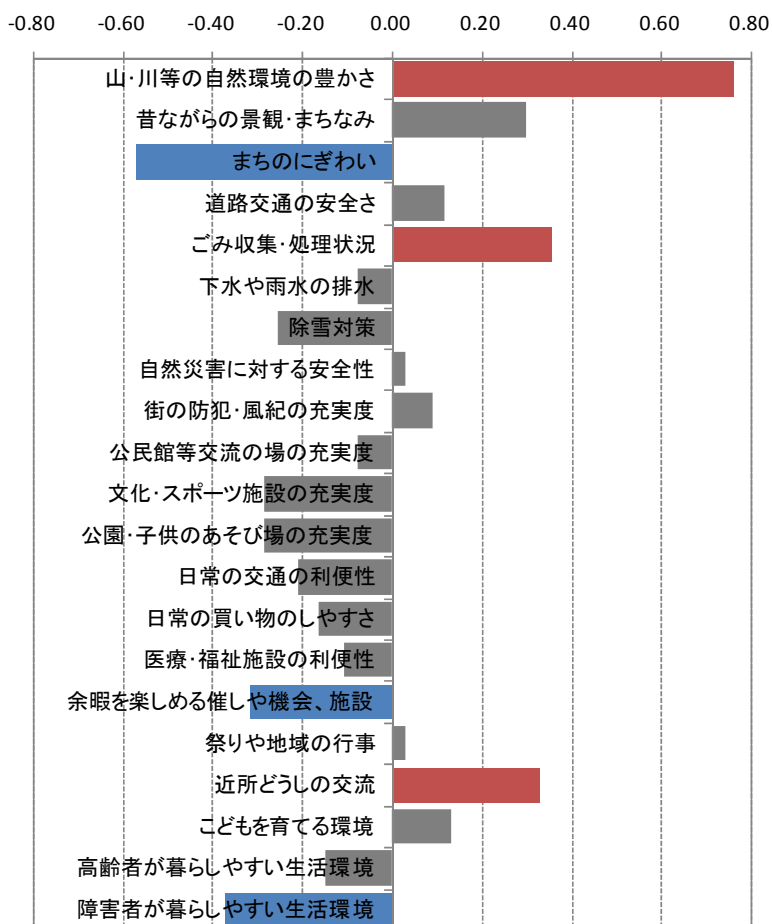
【20年後に期待するまちのイメージ】



「黒石市全体の将来イメージ」と「山形地区の将来イメージ」についてアンケートを行った結果である。

黒石市全体では、「生活環境が整ったまち (38.3%)」、「福祉が充実したまち (31.2%)」、「産業が盛んなまち (21.8%)」が挙げられている。一方、山形地区では「豊かな自然との調和がなされたまち (41.8%)」、「治安がよく災害のないまち (28.4%)」と、地区の特徴である豊かな自然とそれに関連する項目が多く挙げられている。

【住環境での満足度】



満足度の高い項目より、満足度の低い項目が多くなっている。
 プラス評価の項目のうち最も満足度が高かったのは「山・川等の自然環境の豊かさ」であり、次いで「ごみ収集・処理状況」「近所どうしの交流」である。
 一方、「まちなぎわい」「余暇を楽しめる催しや機会、施設」「障害者が暮らしやすい生活環境」で満足度が低くなっている。

【自慢できるもの、将来に残し伝えたいもの】

祭り・催し	<ul style="list-style-type: none"> ・黒石よされ祭り ・黒石ねふた ・旧正マッコ市 	自然風景等	<ul style="list-style-type: none"> ・中野のみみじ山 ・青荷温泉 ・虹の湖 ・東公園の桜 	特産物	<ul style="list-style-type: none"> ・りんご ・こけし ・津軽せんべい
文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・中野神社 ・重要伝統的建造物群保存地区 ・津軽三不動 	文化・観光施設等	<ul style="list-style-type: none"> ・りんご研究所 ・浄仙寺 ・津軽こけし館 	※各項目の上位3位まで	

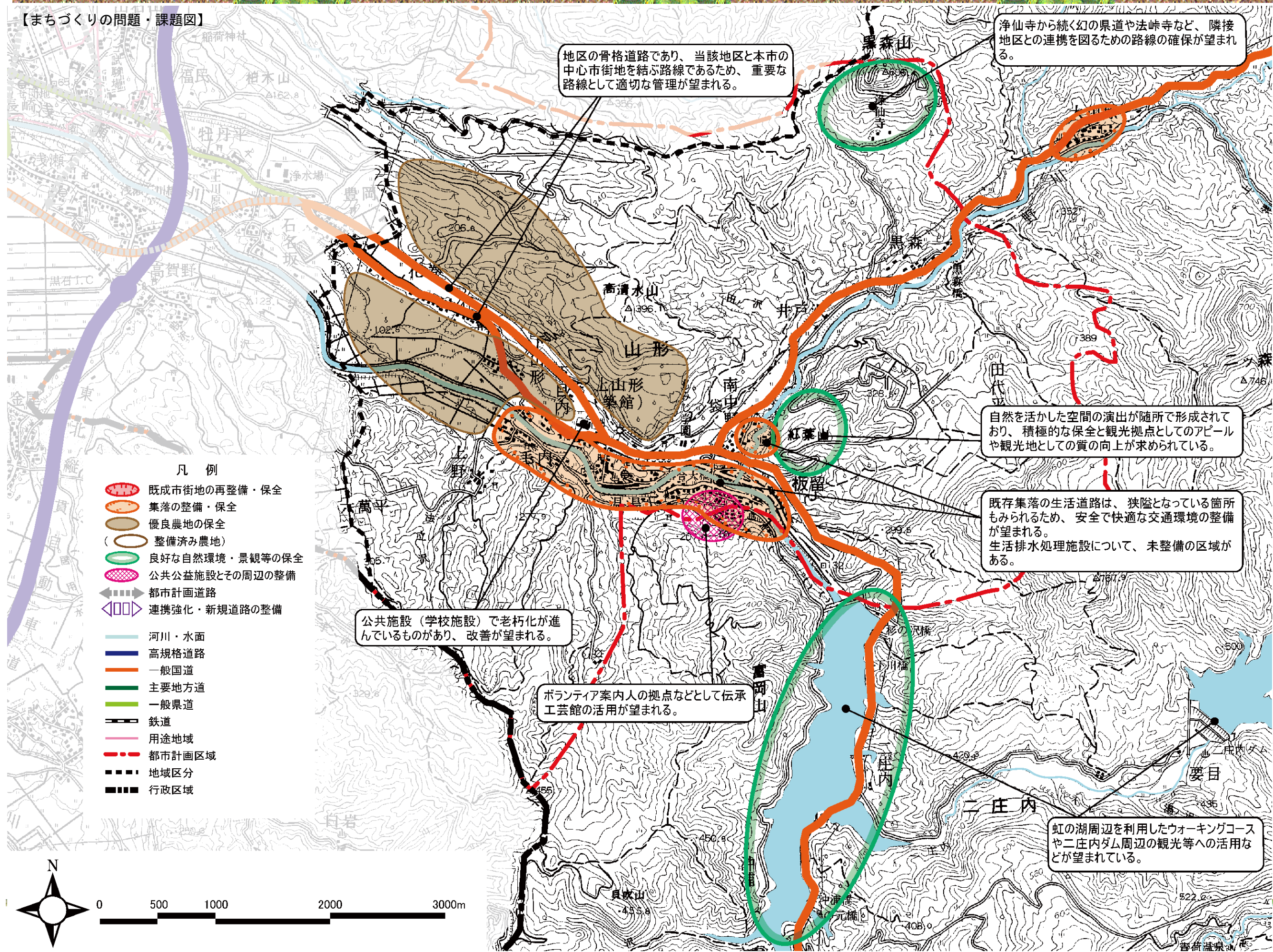
■現況写真

	<p>[浅瀬石川ダム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅瀬石川ダムは、洪水調節という治水面と、かんがい用水、都市用水の供給という利水面の役割を担っている。 ・ダムを一望できる展望所などが整備されており、良好な景観が広がる。
	<p>[虹の湖公園]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内にはレストハウスをはじめ、休憩場、スポーツ広場、アスレチック、パターゴルフ場、大型遊具などあり、自然を満喫しながら楽しめる空間となっている。 ・周辺の雰囲気とも融合した空間が演出されている。
	<p>[水神の森]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から地元住民に大切にされている場所である。 ・入口には案内板があるものの近隣住民以外からは、あまり知られていない。 ・特徴ある観光資源として今後の活用が期待される。
	<p>[浄仙寺及び文学の森]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非日常的な空間として感じられる場所。 ・本市の歴史も感じられる良質な空間が広がっている。
	<p>[浅瀬石川 アートの道]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害のない川を第一に考え、自然豊かなふるさとの創出と自然環境の回復などを目的に整備された。 ・アートの道には昔話が描かれたモニュメントが設置されており、歩いて感じて学べる空間が演出されている。 ・また近隣には黒石を代表する観光拠点である中野もみじ山と伝承工芸館がある。

■まちづくりの問題・課題

まちづくりのテーマ	まちづくりの問題・課題	まちづくりの動向
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区内にあるりんご園などの優良農地については、積極的に保全を図る必要がある。 ・ 国道 102 号、394 号沿道は、周辺の自然環境に配慮しつつ、良好な交通利便性を活かした沿道サービス機能などの立地も望まれる。 ・ 地区の大半を森林、原野が占める。無秩序な開発行為などから本市が有する自然を守る必要がある。 	
自然環境 ・ 景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八甲田連峰の一部をなしている豊かな山林や森林また浅瀬石川等、地区の自然緑地については積極的に保全を図る必要がある。 ・ 浅瀬石川周辺には良好な自然環境が残っており、親水空間としての活用が望まれる。 ・ 自然を活かした良好な空間が随所で演出されており、積極的な保全と観光拠点としてのアピールや観光地としての質の向上が求められている。 ・ グリーンツーリズムなどが盛んとなっており、受け入れ体制の整備などが望まれる。 ・ 虹の湖周辺を利用したウォーキングコースや二庄内ダム周辺の観光等への活用などが望まれている。 ・ 優良農地の保全が求められる。 ・ 北国の特性でもある、雪の有効利用について検討が望まれる。 	
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 102 号及び 394 号は地区の骨格道路であり、当該地区と本市の中心市街地を結ぶ路線であるため、重要な路線として適切な管理が望まれる。 ・ 既存集落の生活道路は、狭隘となっている箇所もみられるため、安全で快適な交通環境の整備が望まれる。 ・ 各観光名所を結ぶ道路も狭隘となっている箇所がみられることから、交通環境の整備が求められる。 ・ 温泉地として有名で、観光資源が多い地区であるが、中心市街地から離れているため、公共交通機関の利便性の向上など利用しやすい環境の整備が望まれる。 ・ より適切な除排雪体制の充実による冬季の交通確保が望まれる。 ・ 浄仙寺及び文学の森から続く幻の県道や法峠寺など、隣接地区との連携を図るための路線の確保が望まれる。 	
施設整備等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活排水処理施設について、未整備の区域がある。 ・ 各観光名所の施設や空間のポテンシャルは非常に高いが、連携や情報発信が不足し、十分に活かされているとは言えない。 ・ ボランティア案内人の拠点などとして伝承工芸館の活用が望まれる。 ・ 公共施設（学校施設）で老朽化が進んでいるものがあり、改善が望まれる。 	

【まちづくりの問題・課題図】



■まちづくりの方針

◎まちづくりのテーマ

『山と川といで湯が彩るこけしの里』

◎まちづくりの基本方針

- ・地区の宝である森林や河川などの豊かな自然環境を維持・保全することを基本とする。また、土地利用転換が必要な場合は、環境に配慮し、後世に受け継ぐべき自然と共生するうおいのあるまちづくりをめざす。
- ・地区住民の生活を支える利便性の向上を図り、生活環境の充実に努めるとともに、観光面でも力を入れ、良好な自然・歴史的環境と調和する居住空間を整備する。

【土地利用】

国道 102 号沿道は、地区の軸として沿道サービス機能の充実を図る。

既存集落は、農地や山林と一体となった農山村集落の自然環境保全とともに、安全な道路の確保など生活環境の向上を図る。

りんご園などの優良農地を保全していくとともに、地区の大半を占める山林等の保全に努める。

【自然環境・景観】

東部に広がる山林、温泉や優良農地については、景観形成要素としてその保全を図るとともに、グリーンツーリズムでの利用など、その活用についても検討していく。

ダムのは治水・利水機能に配慮しつつ、自然に親しむレクリエーションの場として、浅瀬石川ダムと虹の湖周辺はその利用を促進するとともに、二庄内ダムはその利用を検討する。

浅瀬石川、中野川等については、水質維持や生態系保全のため、良好な水辺環境の保全を図りつつ、自然に親しむレクリエーションの場としての機能維持を図る。

また、北国特有の雪を観光資源等として有効利用する方策を検討する。

【道路・交通】

国道 102 号及び 394 号をはじめとした主要幹線道路は、広域的な連携を担う路線として、その機能の適切な維持管理を図る。

既存集落の生活道路や各観光名所を結ぶ道路、幻の県道、法峠寺などの隣接する地区の観光資源などとの連携を図る道路は、安全で快適な交通環境の確保を図る。

公共交通機関の各観光地までの運行など利便性の向上について検討を行う。

より適切な除排雪体制の充実による冬季の交通確保を図る。

【施設整備、その他】

合併浄化槽など、地区に応じた適切な排水処理について検討する。

各観光拠点の連携や情報発信を促進していく。

伝承工芸館をボランティア活動の拠点として位置づけ、活用を図る。

老朽化が進む公共施設について、適切な改善方策の検討を行う。

